

マイクロスコープと4台のレーザーを駆使し、将来に希望が持てる歯科診療に取り組む

はぎわら歯科 院長 萩原 洋行 先生

伊豆高原駅から徒歩10分ほどの距離にある「はぎわら歯科」。院長の萩原洋行先生は、最新の機器を積極的に活用しながら、後進の指導にも熱心に取り組んでいる。機器の活用法や将来の歯科治療についてうかがってみた。



萩原洋行 院長

患者の気持ちを大切に 都心レベルの治療に取り組む

はぎわら歯科は、萩原洋行先生のお父様から続く歯科医院。温暖で東京からも近い、リタイア後の生活を楽しむために、首都圏から移り住む人も多い。「そのせいでしょか、歯科に対しても、東京と同じレベルの診療を要求される患者さんが少なくありません。周囲に歯科医院が増えたこともあり、診療は年々シビアになっています」

患者層の中心は60代。人生経験も豊かな患者が多いだけに、満足できる診療を提供するため、何を求めているか、どう分かりやすく説明するか、コミュニケーションには気を遣うという。「患者さんの喜ぶ顔が見たい。その気持ちをなによりも大切に診療を続けています」

マイクロスコープの導入で 治療の精度が向上

昨年、はぎわら歯科には、マイクロスコープという強力な助っ人が加わった。それも2台、同時に設置した。「実際に使ってみて、これほど違うのかと愕然としました。まず驚いたのが根管の異物除去です。これまでもビデオカメラや拡大

鏡を使って治療していましたが、以前は見ているようで、じつは勘や感覚に頼っていたのだと痛感しました」

導入前は、根管治療や歯肉炎の治療を中心に使うと予測していたが、今ではより広範囲の治療に使っているという。たとえば、クラウンやブリッジなどのプレパレーションだ。細部までクリアに視覚で確認できるため、印象を正確に取ることができる。印象の精度が上がったことで、歯科技工士との連携がスムーズになり、補綴物の修正が少なくなった。また、CAD/CAMもマイクロスコープを使うことで、精度が上がった。

また、導入し、初めて気づいたこともある。マイクロスコープだからこそ必要になるミラーテクニックだ。裸眼で見た状態とは反転した画像になるため、萩原院長は、ミラーの使い方のコツを覚えるまで、少しとまどったという。

「外科に使えることも驚きでした。出血量が少ない症例に限られますが、境目が分かりにくい癒着部分もしっかりと目で確認できる。非常に安心して治療に臨めます」

4台のレーザーを 症例に合わせて使い分ける

はぎわら歯科で目を引くのは、4台のレーザーだ。Er:YAGレーザーを皮切りに、1年も経たないうちCO2レーザーを導入。さらに、

Nd:YAGレーザー、半導体レーザーを設置した。「無痛で治療を進めるには、麻酔が必要になりますが、麻酔にはやはりリスクがある。とくに高齢の患者さんは、血圧の上昇などのトラブルが心配です。そこで、麻酔なしでも治療ができるレーザーに注目したのです」

4台も揃えることになったのは、レーザーには得意不得意があり、症例に応じて使い分ける必要があると感じたからだ。1台を無理に使い回すより、症例に合わせてレーザーを使い分けるほうがよとの判断だった。

どのように使い分けているか、簡単に紹介しよう。まずは、硬組織と軟組織に対する効果だ。Er:YAGレーザーは、一般的には硬軟両組織に使えるレーザーだが、萩原院長は硬組織の切削に使っている。一方、軟組織に使っているのはCO2レーザーとNd:YAGレーザー、半導体レーザーだ。なかでも、CO2レーザーは8Wと出力が大きい機種を使っているため、大がかりな手術を必要とする症例に使うことが多い。また、Nd:YAGレーザーはポケットに入れやすいことから、歯周病に使うことも多いという。

「私の歯科医院では、麻酔をする場合、どんな症例でも、血圧と脈拍を測定し、パルスオキシメーターで血液中の酸素濃度もチェックしています。しかし、患者さんによっては、バイタルチェックをすることで、かえって不安を感じる方もいます。麻酔を減らすことは、患者さんの心理的・肉体的負担を軽くします。治療効果も高いレーザーは、患者さんと私たち双方にメリットをもたらしてくれるのです」

夢が持てる歯科のため、後進の育成に力を注ぐ

現在、スタッフは、勤務医が3名、歯科衛生士5名、歯科助手1名、歯科技工士が1名。萩原院長は、彼らの育成にも力を注いでいる。例を挙げれば、歯科衛生士の海外研修。3年以上勤務の歯

科衛生士を対象に、これまでに2回、スウェーデンとスイスへ予防歯科の研修に送り出した。また、スウェーデンスタイルの予防歯科を学ぶ国内のセミナーにも積極的に参加させている。

「今の若いスタッフは、参考書を勧めても、なかなか読まない。それよりも、セミナーなどに参加させて、体験させるほうがいい。視野が広がり、勉強する意欲が刺激されるからです」

勤務医に対しても、歯科医師の基本である保存治療の技術を向上させるため、日々、きめ細かな指導を行っている。前項で紹介したマイクロスコープを導入したのも、勤務医たちの技術向上を助けるという目的があったからだ。

「若い歯科医師たちが、将来に夢を持てるようにサポートするのが、先輩としての役割。最近はインプラントの人气が高まっていますが、確かな保存治療の技術があるからこそ、自費診療も生きてきます。無理に範囲を広げなくても、汗をかきながら、一生懸命、治療をこなしていれば、しっかりと食べていける。そんな安心して働ける歯科業界にしていきたいですね」

Profile

萩原 洋行 先生

- 1978年 日本大学歯学部卒業 ●1978年 日本大学歯学部第3補綴学教室(クラウン・ブリッジ)助手 ●1980年 鶴見大学歯学部第一口腔外科学教室助手 ●1985年 国立がんセンター口腔科勤務(兼任)
- 2000年 はぎわら歯科院長に就任 ●日本歯科医師会会員 ●日本ヘルスケア歯科研究会会員 ●日本顎咬合学会会員 ●東京松風歯科クラブ 幹事 ●日本顕微鏡歯科学会会員 ●日本エルビウム・ヤグレーザー研究会会員

はぎわら歯科

住所: 静岡県伊東市八幡野1194-30
TEL: 0557-53-0026
HP: <http://hagiwara-hd.com/>

洋館を思わせる落ち着いた色合いの外観



ナチュラルなイメージの受付



診療室にはユニット6台が並び



個室タイプの診療スペースもある

昨年、導入したマイクロスコープ



これらのレーザーを使い分けている



抜髄処置・感染根管治療の滅菌や歯周ポケットの消毒、滅菌ができる「コスモペリオエンドシステム」



歯科衛生士を積極的に海外研修に送り出している



萩原先生とスタッフのみなさん